

お寄せいただいた意見（概要）		市の考え方（対応）
地域住民の高齢化	老人が多くなった。子どもたちも中学生になると地域の戦力になる。今後は近くにいて地域活動を加勢する教育をして頂きたい。	まず、国の定めた普通教育の目標を達成するよう努めなければなりません。その上で、学校・家庭・地域の連携を密にしていかなければならないと考えております。
地域の人口増を	厚陽、埴生地区は人口密度が低い。今後は、消極的縮小より、人が集まること（市営住宅等）も考えるべきではないでしょうか。	各地域の整備、活性化策については、市の総合計画（基本構想・基本計画・実施計画）において、様々な分野の方針が示されておりますので、その計画に基づき進めていきます。
	発展していない地域に企業進出や住宅団地ができ、規程数の生徒が存在すれば、新規の学校は建設される。学校が存続しているから地域に人口が増えることはない。学校は地域がさびれることとは関係しない。	
	教育機関が一定エリアから消えることは、地域格差を生む。学校のないエリアには今後も転入者が見込めず、さらなる過疎化の進行を招くのみである。教育のみならず、全般的な行政サービスの低下を意味する。	
少子化等による適正配置	財政的にも少子化が進む中で適正配置を進めることが必要である。	基本方針が決定した時点で、その決定内容に沿って、校舎の整備計画を策定していきたいと考えます。
	新幹線駅南側も発展性があるので、厚陽中学校を別の場所に建て、厚狭中の校区を分けるような適正配置を考えてもらいたい。	適正配置を行うこととなった場合は、ご提案のことも検討していきたいと考えます。
	合併したので市全域の校区を見直したらどうか。	この方針は、全市的に学校運営や教育的視点から検討委員会の答申を受けて、基本方針案を作成したもので、基本方針の決定内容に基づき、適正配置に当たっての留意事項に基づき進めることとなります。
	適正配置に当たっては、校舎の整備計画も同時に作成し、例えば新たな場所に学校を建設する等、時間をかけて検討してもらいたい。	施設整備計画（校舎の耐震化推進計画等）を策定することになっている。新たな場所に学校を配置するかについては、校舎の改築時期により判断することとなります。当面は校舎の耐震化を推進していきたいと考えます。
	学校運営・教育効果・財政面等から児童・生徒の公平な教育を受ける権利を保障することが必要。地域が発展し、児童・生徒数が増えれば新規の学校建設もありえる。答申の留意事項に沿って適正配置を行い学習効果を上げるべき。	少子化が進む中で、学校の規模については、学校運営・教育効果・財政面から一定の規模が必要と考えております。
	基本方針案で対象校がある場合は10～15年の見通しを示した上で校区の理解を得る必要がある。	基本方針に沿って、校区の理解を得ながら進めたいと考えます。
	団塊世代の子どもが、親となる時代になるので、ほぼ横ばいに近い減り方になると思われる。	各中学校区の動向につきましては、 ^{おおむ} 概ね次のとおりです。高千帆中学校区は、15歳が186人、0歳が130人、小野田中学校区は、15歳が148人、0歳が147人、竜王中学校区は、15歳が80人、0歳が86人、厚狭中学校区は、15歳が119人、0歳が91人、厚陽中学校区は、15歳が17人、0歳が8人で、全体的に見ると少子化が進んでいます。